



UU now

Vol.19

発行：宇都宮大学 編集：広報室
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
TEL 028-649-8649 FAX 028-649-5026
URL <http://www.utsunomiya-u.ac.jp>
E-mail plan@niya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

存在意義を確認する



読売新聞東京本社 執行役員販売局長

石川 明

Ishikawa Akira

【いしかわ あきら】1948年、栃木県国分寺町（現下野市）生まれ。66年、県立宇都宮高校普通科卒。70年3月、宇都宮大学農学部農業経済学科卒。同年4月、読売新聞社入社。同年10年、販売局開発部企画課。86年、ニューヨーク支局駐在。91年、販売局販売3部課長。92年、販売局販売3部次長。95年、販売局管理部長。98年、販売局販売3部長。2000年、読売新聞西部本社販売局次長。01年、読売新聞西部本社執行役員販売局長。07年、読売新聞東京本社執行役員販売局長。

OB INTERVIEW 若者に新聞の価値を伝えたい

読売新聞に入社以来、一貫して販売畑を歩んできた。念願の発行部数日本一、そして1000万部達成。読売躍進の渦中に籍を置き、厳しくも確かな手応えを感じる仕事に携わる中で、「自分の存在意義を確認できた」という石川さん。いま、若い人の新聞離れを危惧する。

読売の躍進とともに歩む

農学部からジャーナリズムの世界へ。宇大OBの中では、異色の存在である。入社当時は、米の生産調整や自主流通米制度の導入など農業政策の大きな転換点にあり、食

糧管理特別会計は赤字が増大。農業を取り巻く環境は激動の時代だった。「新聞社になんか来ている暇はないだろう。もっと大学で勉強したことを生かせる農業関係の仕事のほうが、君には

いいんじゃないか。入社試験で読売の面接官に何度も問いつめられた。「会社に入って5年くらいは、新聞社を辞めて北海道の農園にでも潜り込んで働こう、そのほうが自分に向いているのではないか。そんなことを随分思った」。その迷いも、やがて消える。

入社以来、販売部数で後塵を拝していた朝日新聞社を77年に追い抜き、94年には大台の100万部を達成し、新聞発行部数世界一の座へ。その間、アメリカに5年間滞在し、アメリカ在住の日本人に新聞を読んでもらうため、東海岸から西海岸まで大陸を奔走した。ちょうど通信衛星を経由してデータを海外

に送信し、現地で新聞を印刷するという時代の始まりだった。ダイナミックな会社の成長と新聞業界の発展を肌で感じる事ができた。

「たいへんだけれども、仕事をやっている、自分の存在意義を感じられるときがある。それは、どんな会社でも言えることだと思う。それ以降、迷いはなくなった」。

銀座に「宇大倶楽部」を

月夜の晩でも傘がある……。学生寮の話の中で、石川さんの口からふと出た「宇都宮大学コチャエ節」の一節である。「私の在学中、周りはいわゆる全共闘世代。卒業して40年。あつという間でした」と当時を振り返る。宇都宮高校ではラグビーに没頭し、宇大時代は、映画研究会に籍を置いた。部室は講堂の中にあつた。在学中2本の8ミリ映画を製作し、学内で上映会を開いた。自らは主役を演じ、宇都宮市内のデパートでロケしたことを記憶している。

読売への入社も、映研の先輩との出会いがきっかけだった。3学年上で同じ農業経済専攻、卒業後読売に入社し、記者となった先輩に「感化された」という。「大学時代、いろんな先輩の下宿を渡り歩き、酒を飲んだりしながら朝まで話し合った。その中で、読売に行った先輩に人間的な魅力を感じた。考え方なのか、何だったかは、よく分からないけど、共鳴したんでしょうね。漠然と、先輩の後を追いかけてみようと思った」。

その秋田出身の先輩は読売を退社したが、現在も交流が続いている。他の映研時代の懐かしい仲間とも、昨年、那須塩原市で開かれた同窓会で、久しぶりに

再会した。「宇大の卒業生が全国に散らばり、いろんな仕事に就いていくといいね。人脈も広がる。宇大倶楽部のようなものを銀座のど真ん中につくって、いろんな職業のOBが集まる。そんな時代が来れば、もっと楽しくなると思う」。

裸足で土の感触を確かめたほうがいい

いま、新聞業界は販売部数の伸び悩みという厳しい状況にある。特にインターネットの浸透で、若者の新聞離れが進んでいる状況を心配する。「大げさだと言われるかもしれないが、新聞を読まない人たちが増えると、『ちよつと危うい』という思いがある。大学の先生の話では、学生は自分に興味のあるものだけをネットで調べ、興味がないことは一切調べようとしないという」。

政治・経済から文化、スポーツまですべての情報が満載されている新聞の価値を、若い人たちに伝えていきたいという。「私は毎朝、新聞を読んでいる親爺の姿を見て育った。いまの若い人にも、そんな光景を見せてあげたい」と微笑む。

「映研の先輩を追って」できれば編集でやっていきたいという気持ちがあったかもしれない。でも、読売に入社を決めたときには、そういう想いは、まったくなかった。農業じゃないけど、靴を履いてコンクリートの上にいるよりも、いつも裸足で土の感触を確かめていたほうがいい。たぶん、そういう感覚は、学生時代に培われていたんじゃないかな。編集の記者と我々とは地面との距離が違う。間違いなく我々営業マンのほうが、地面に近いところにいる」。

（文・ピオス編集室／撮影・木原悠葉）

CAMPUS



附属農場産の生産物を使用した商品

大学生協（峰キャンパス店）、ミニストップ宇都宮大学店等で販売。価格は税込み

宇大グッズがたくさん揃いました

商品を通して宇大をアピール

農学部教授 長尾慶和

乳製品開発のきっかけは、附属農場の乳牛の飼養環境を改善し、良質のミルクを生産できるようになったこと。その結果、レベルの高い県内の乳質品評会で表彰されたことが、職員や学生の大きな励みになり、更なる乳質向上に繋がった。

次のステップとして乳製品開発があった。宇大のミルクを原料として使えば、日本中どこかの大学にも真似できないチーズが作れる。味はもちろん、安全・安心を必ずアピールできると考えた。

また、良質なミルクには、毎日の教育・研究の成果が凝縮されている。大学発の乳製品として、そこに重要な意味があると考えている。



■ミルクソース

【150g・550円】

牛乳に上白糖を加え、直火で煮詰めて練り上げた自然な甘味のソースです。糖質のコゲが懐かしいキャラメルのような風味です。フレッシュチーズ、パンやフルーツにつけてお召し上がりください。



■モッツアレラチーズ

【140g・550円】

もちっとした食感が特徴で、スライスしたトマトにバジルの葉をのせオリーブオイルでいただくと格別の美味しさです。小麦粉、溶き卵、パン粉をつけてフライに、また、一口サイズに切りわさび醤油でいただくのも美味です。



■フレッシュチーズ

【150g・550円】

搾りたての牛乳を乳酸発酵させ、さらに水分を抜いて固めたクリーミーなチーズです。そのままパンやクラッカーにのせたり、サラダにトッピングしてお召し上がりください。



■モッツアレラのたまり漬け

【100g・550円】

モッツアレラチーズを那須のたまり醤油に漬け込んだもので、まろやかな口当たりで、チーズの風味と和のテイストが絶妙です。お酒のおつまみに最高です。



■宇どん（乾麺）

【各250g・各120円】

附属農場で生産された無農薬栽培小麦粉を100%使用した手作りうどんです。イワイノダイチを使用したうどんは、滑らかでこしがあります。農林61号を使用したうどんは、風味豊かな昔ながらの地粉うどんです。



■そば（乾麺）

【200g・220円】

無農薬栽培でつくられた、附属農場産そば（信濃1号）は、香りの高い品種ですので、ぜひ、そば本来の香り、甘み、のどごしをご堪能ください。



コシヒカリに負けないおいしい米を

大学院農学研究科2年 加藤 治

種まきから収穫まで職員の方と協力しながら栽培している。ゆうだい21はコシヒカリに負けないくらいおいしい米だと思っている。なので、多くの人にゆうだい21を知ってもらいたい。自分の研究を礎にして、品質や特徴がより明確になり、広く普及していくことになればうれしい。



■ゆうだい21

【2kg・1000円】

附属農場で開発した新品種のオリジナル米です。コシヒカリと比べると茎が太く倒伏やいもち病に強く、また、食味もコシヒカリよりも甘味が強く、粘りがあるのが特徴です。



■峰が丘の風（特別純米酒）

【720ml・1200円】

附属農場にて低農薬栽培した酒米五百万石を醸造したものです。醸造元の協力の下、吟醸並の精米歩合により、香り良いきりりとした飲み口の純米酒です。



■宇大浪漫（麦焼酎）

【各720ml・各1300円】

附属農場産二条大麦「ミカモゴールド」を原料とした本格麦焼酎です。

天然吟香酵母（青瓶）：柔らかで、甘く、香り豊かな麦焼酎
花酵母「日々草」（白瓶）：香味のバランスのとれた旨みのある麦焼酎



■宇大浪漫（芋焼酎）

【720ml・1400円】

附属農場産サツマイモ「ベニアズマ」と同農場産米による米麹を使用した芋焼酎です。酵母は、花酵母「蔓薔薇（ツルバラ）」で醸造し、香味にバランスのとれた旨みのある芋焼酎に仕上がりました。



●附属農場産の生産物を使用した商品のお問い合わせ先
TEL0285-84-2424
宇都宮大学農学部附属農場
栃木県真岡市下籠谷443

CAMPUS

キャンパスグッズ

大学生協（峰キャンパス店・陽東キャンパス店）で販売。価格は税込み

社会に出てからも使える商品も検討中

宇都宮大学消費生活協同組合 専務理事 秋元誠司

昨年、宇都宮大学のロゴマークが発表された。生協は、そのマークが入った商品を販売することで、宇大をアピールする一翼を担っていきたくと考えている。大学ブランド商品は、学生が帰省する際、家族に買っていったり、オープンキャンパスで高校生が記念に買っていったりしている。

今後も、記念品として考えられる製品や、学部・専攻の授業で用いられ、社会に出てからも長く使っていける製品のキャンパスグッズ化を検討していきたい。



■MOTTAINAIバッグ

【360円】

4つのロゴマークをそれぞれ商品化。ロゴマークにより異なる4色のバッグを制作しました。買い物時にはさりげなく「環境問題を意識する宇大生」をアピールしてください。



■湯呑み

【472円】

“宇都宮大学”という文字が書かれた湯呑みは、留学生のお土産に大人気。国内の帰省の際のお土産にも利用ください。



■ミニハンカチタオル

【420円】

4つのロゴマークを4色のタオルにそれぞれマーキング。色系を使っているのでマークがはがれることがなく、長く使える1品です。

■ライター

【105円】

生協主催で学生からデザインを募集し制作しました。パーナーライターなので強い風の中でも確実に使える、安価で便利な商品です。



■ボールペン

シャープペンシル

【105円】

ロゴマークをあしらって本体カラー5色を品揃え。記念品・贈答品としては一番人気です。クリップ部を押すと芯が収納できるボールペンはビジネスにも最適。



■蛍光ペン

【105円】

ロゴマークをあしらってインク色5種類を品揃え。学生にも人気の細字と太字、2つの芯を持つ商品を採用しているので、試験勉強にも重宝します。



■クリアホルダー

【94円/枚 3枚セット282円・4枚セット376円】

4つのロゴマークをそれぞれ商品化。同じロゴマークの3枚セットや異なるマークをセットにした4枚組もあります。



■ドキュメント

（クラッチ）バッグ

【525円】

ビニール地に学生から募集し選ばれたスタイリッシュなデザインが特徴。雨の日でも中は濡れることなく安全に教科書・ノート等を持ち歩けます。

自分の考えたことを残したい

宇都宮大学消費生活協同組合学生委員会
教育学部2年 森 裕貴

キャンパスグッズの担当者として学生の意見を取り入れながら新しい商品をどんどん作ってこうと考えている。学生を対象にどんな商品が欲しいのか調査をしていきたい。商品に実用性があれば、学生は自然と買い求め、長く使ってくれる。

大学の中に、何か、自分が考えたことを残していきたい。モノとして残せるものがキャンパスグッズ。商品化が実現したときの達成感は、生協学生委員会の他の活動とは違うものだと思う。



●キャンパスグッズのお問い合わせ先

TEL028-636-1856

宇都宮大学消費生活協同組合
峰キャンパス（学生会館内）
陽東キャンパス（石井会館内）

ロゴマークを使用した非売品

■のぼり

本学のロゴマークが入ったのぼり。主に、オープンキャンパスや峰ヶ丘祭等のときにキャンパスの周囲に設置されます。白を基調にしたさわやかなデザインです。



■うちわ

ロゴマークとカラフルな色遣いで鮮やかなうちわになっています。夏のオープンキャンパスや関東甲信越大学体育大会等で使われています。



■はっぴ

本学関係者が着るはっぴ。本学でイベントがある日等に来学すれば、このはっぴを着用している本学関係者を見ることができるともかもしれません。



■不織布バッグ

今年度より使用されている、本学のロゴマーク入りのバッグ。茶色とベージュ色の2種類が製作されていて、主に、入学式やオープンキャンパス等で資料を配付するのに使われています。

■封筒

白地に茶色のロゴマークがよく映える封筒。サイズは大小2種類あります。表面の左下は部署ごとに、部署名、電話番号等が印刷変えられています。



■紙製ホルダー

観音開きで、開口部の左右両側に収納することができます。サイズはA4版のものまで収納できます。不織布バッグと同様、主にイベント等で資料を配付するときに使用されます。

REPORT

宇都宮大学 地域貢献

新たな取組による地域貢献



NHK解説主幹（「ニュースウォッチ9」キャスター）柳澤秀夫さんから国際報道の方法を学ぶ（役職は当時のもの）

も夏期と春期の休業期間に行い、講義4科目は2泊3日の集中合宿形式で実習2科目はそれぞれ80時間行います。皆さんは、これら6科目を学部選択科目として取得でき、卒業時に「国際キャリア教育プログラム」履修を証明する修了証が授与されます。

このプログラムには、全国から優秀な大学生、社会人が参加し、高校生も毎年参加します。この作新学院大学・白鷺大学との連携プログラムに対して、文部科学省より1億円規模の助成が予定されています。このプログラムは、国際協力機構（JICA）、栃木県、栃木県経済同友会、栃木県国際交流協会などが応援する、産官学連携の教育プログラムです。

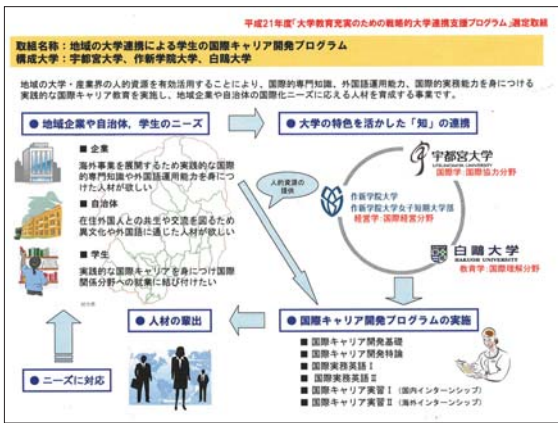
文部科学省「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」採択事業

地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム

国際学部教授 友松篤信

皆さん、国際化時代に、国際的な仕事をしたと考えることはありませんか。「でも、なんだか敷居が高い」と思っている皆さんに、階段を登るように一歩一歩目標に近づき、本学全学部対象の教育プログラムを提供します。

国際的な仕事先には、海外事業を展開する地元企業があります。また自治体、国際関



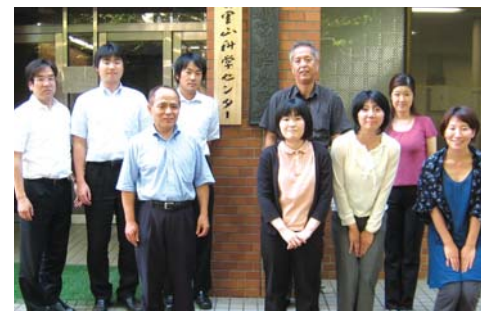
宇都宮大学と栃木県、市町が連携して地域鳥獣管理士を養成

文部科学省技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」採択事業

里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム

農学部附属里山科学センター
特任准教授 高橋俊守

里山では鳥獣害が年々深刻化し、営農意欲に大きな打撃を与え、地域の更なる過疎化・高齢化を招くという、悪循環が生じています。効果的な対策を行うために地域で指導的な役割を果たす技術者が不足し、対策を担う住民や自治体のネットワークも十分に構築されていないのが現状です。



プログラムの本部が置かれている農学部附属里山科学センター

こうした状況を受けて、平成21年度文部科学省技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」に、宇都宮大学と栃木県が連携して応募していた「里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム」が採択されました。このプログラムは、鳥獣害の専門的な知識と技術を備え、地域で指導的な役割を果たすことのできる人材を養成することを目的としています。プログラムの実施

本部は、農学部の附属組織として平成21年に新設された里山科学センターに置かれています。

里山野生鳥獣管理技術者養成プログラムには、地域の情報収集、問題点の解明、解決策の提案と実施計画の策定を総合的に行うことのできる「地域鳥獣管理プランナー」と、地域ぐるみで行う総合的な防除対策を現場で指導することのできる「地域鳥獣管理専門員」を養成する二つのコースが設置されています。地域で求められる人材を養成するため、宇都宮大学と栃木県が連携して、講義・演習・現地実習・インターンシップからなるカリキュラムが編成されています。

イチゴの光学的品質評価技術と工学的物流技術を融合したロバスト流通システムの開発

農学部附属農場
准教授 柏寄 勝

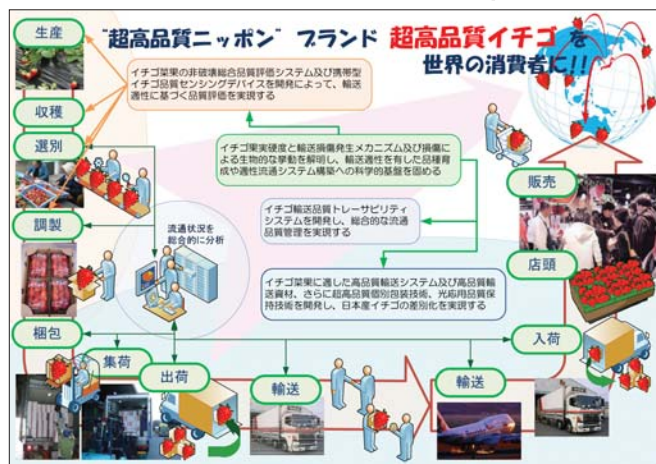
イチゴは栃木の特産物であり、その出荷量は全国一を誇っています。さらに海外における日本産イチゴは国内生産地の努力により安全安心で高品質のイメージが形成され



本技術開発事業を構成する研究テーマ

また、現在使われている輸送車体やコンテナ、イチゴ用の包装資材について輸送時の振動・衝撃の観点から個々および相互の関係を把握し、全体としての輸送特性の改善を図る技術開発を行うこと。そして、生産時品質および輸送時品質を把握

【問合せ先】
TEL: 0285-84-1338
FAX: 0285-84-2425
E-mail: mkashiwa@cc.utsunomiya-u.ac.jp



SLOWFOOD

馬頭のイノシシ丼 — 食べると元気になる山の幸 —

豊かな自然が広がる那珂川町では、山にはたくさんのイノシシが生息しています。しかし生息数に比べて山に十分な食べ物がなくなってきたせいも、近年では、毎年1千万円を超える農作物が被害を受けています。そこで、那珂川町は、この厄介な野生動物であるイノシシを、食用のイノシシ肉として活用し、地域を活性化できないかと考えました。そして、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業（国庫補助事業）を活用し、今年（平成21年）5月、日本でも珍しいイノシシ肉加工施設を完成させました。



那珂川町のイノシシ肉加工施設。野生獣の食肉加工の基準を満たした施設であるため、イノシシ以外の野生獣肉も加工できる（写真上）。イノシシをさばくための加工台（写真下）。解体中にも、肉の品質には気を配り、内臓の病気などが発見されれば、すぐに食肉加工を中止する。施設の中は、イノシシが運び込まれる部屋、枝肉までの加工のための部屋、枝肉を切り分け包装するための部屋に分かれている。



那珂川町の協力で訪問させていただいたイノシシ肉加工施設は、廃校になった小学校の敷地を利用して建てられていました。加工施設では、栃木県による「野生獣肉に係る衛生管理ガイドライン」にしたがって、安全な食材としてイノシシ肉を提供しています。野生獣は、もともと屋外の山の中で食肉としてさばかれてきた歴史があります。そのため、イノシシ肉を食肉として出荷するためには、食品衛生法の基準に合格できる、このようなしっかりとした施設が必要となります。

加工施設では、今年5月から、取材をさせていただいた9月上旬までに、43頭のイノシシが搬入されました。近年、農産物へ多くの被害をもたらすようになってきたイノシシは、生息数の適正な管理が必要となります。生息数の適正な管理のために、栃木県では年間1,500頭の捕獲、那珂川町では年間150頭の捕獲が目標と

なっています。そこで、この加工施設の受入能力や稼働能力から、イノシシの処理の年間目標頭数を62頭としています。

加工施設には、栃木県内の八溝地域からイノシシが運び込まれ、食肉用として加工されます。ただし、生きたイノシシがこの加工施設に運び込まれるのではありません。罠などによって、イノシシが生きたまま捕獲されると、捕獲者（猟師）は、那珂川町の担当者へ連絡をします。連絡を受けた那珂川町の担当者は、急いでイノシシの捕獲現場へ駆けつけ、生きたイノシシの異常の有無を確認します。異常がなければ、捕獲者の協力で現場でイノシシの屠殺を行い、イノシシの血液のサンプルを採取し、屠殺されたイノシシを加工施設へ冷凍車を使って運びます。

このように、生きたまま捕獲されたイノシシのみが、イノシシ肉として加工される対象となります。加工施設ができる以前は、猟師が捕獲した場合、自分で解体できないものは、土に埋め戻したりしていたため、無駄に捨てられていたイノシシ肉がたくさんあったそうです。



罠によって捕獲されたイノシシ。銃砲によって捕獲されたイノシシは、散弾銃の鉛球が有害成分を持つため、食肉の対象外とされる。



解体された肉は、うまみを出すために、枝肉として冷蔵庫で4～5日熟成させる（写真左）。加工施設の規模から、保存できるイノシシの数は、3～5頭が限界。販売しやすい大きさに加工されるが（写真右）、大きなレストランでは枝肉のまま購入する場合がある。



包装されたイノシシ肉。出荷されたイノシシ肉の安全性を確認するために、出荷した肉の一部を消費期限まで保存している。

加工施設から提供されたイノシシ肉は、那珂川町の内外で食べたり買ったりすることができます。そこで、一日の数を限定しながら販売している「レストランばとう」の「イノシシ丼」の噂を聞きつけ、「百聞は一見にしかず」ならぬ、「百聞は一食にしかず」ということで、「イノシシ丼」を食べてみることにしました。



道の駅ばとう（写真上）と、イノシシ肉の入荷が不安定で数も少ないことから、数を限定して出される「イノシシ丼」（写真下）。

イノシシの肉は、一般に臭いが強いと言われていました。しかし、血抜きされたイノシシからいち早く内臓を取り出すことによって、肉の臭みを減らすことができるそうです。また、調理方法を工夫すれば、さらに美味しく食べることができます。レストランばとうで食べることができるイノシシ丼は、肉の下にゴボウを敷くなどして、イノシシ肉の臭みを抑える調理の工夫がされています。なお、イノシシ丼の肉は、背・肩ロースのイノシシ肉を使っているということでした。ただし、入荷するイノシシ肉の量が不安定なため、現在1日20食の限定販売となっています。

イノシシ丼を食べてみたところ、肉の臭みは全くなく、肉の味は、やや菌ごたえのある豚肉に近い食感でした。焼いたときに溶け出した肉の脂は、しっかりと肉にからまっているように思います。なお、イノシシ丼は、この店の手作りのタレで焼き上げています。また、イノシシ丼に使われるおコメは、那珂川町産コシヒカリ100%を用いているそうです。イノシシ丼に付いてくる小鉢やサラダに使われる野菜は、那珂川町で収穫した新鮮なもので作られているそうです。このようなイノシシ丼を食べることによって、馬頭の自然そのものを食べている気持ちになることができました。

那珂川町を中心とした山の幸であるイノシシ肉。地元の人たちの努力によって、我々の身近な食材となりつつあります。加工施設の運営は、那珂川町によって行われています。那珂川町は、イノシシ肉を単なる収益の増収を目的とするための食材としてではなく、農作物被害の軽減、イノシシ肉を提供することによる地域の活性化を目指しています。

このような那珂川町の人たちの努力の賜物であるイノシシ肉を食べ、栃木の自然の元気を体感してみませんか？

（農学部 野口良造）

宇大生は 今!

峰ヶ丘祭の思い出

国際学部



- 色々な国の料理が出されるので、その料理を食べるのが毎年の楽しみ。(4年♀)
- 企画や模擬店がバラエティーに富んでいて楽しかった。(3年♀)
- サークルで出した模擬店で忙しかつたけど、楽しかった。(2年♀)
- 宇大生の底力を体感することができた。(2年♂)
- サークルでのステージ発表やストリートライブに力を注ぎ、あこく楽しい3日間だった。(3年♀)
- みんなでたいやきを作ったことがあこく楽しかった。(2年♀)
- 多くの方にタイ料理を楽しんで頂けて最高だった。(4年♂)
- サークル一団となって一つのことには一生懸命取り組んだこと。(4年♀)
- 見るだけでなく模擬店を出すことでも楽しめた。(4年♀)
- 年に一度の峰ヶ丘祭で一生の宝物になる思い出ができた。人に感謝!(3年♀)

教育学部

- サークルで模擬店を出した! 準備や片付けは大変だったけど、打ち上げは楽しかった!(4年♀)
- 峰ヶ丘祭と言えばプロレス研究会の試合。毎年、感動と笑いで盛り上げてくれる。(3年♂)
- ダンスサークルdoodleのダンスが魅力的で、いつもと違う友達の様子にドキッとしてしまった。(3年♂)
- お店で色々食べられておいしかった。(4年♂)
- サークルで模擬店を出した。そのための準備や販売は大変だったが、協力して一つの事を行うことは楽しかった。(4年♂)
- 模擬店の準備と運営は大変だったけど、お客さんからの「美味しい」という言葉で頑張れた。(3年♀)
- 模擬店で販売されていたたこ焼きが美味しすぎて食べ過ぎてしまった。千ヨコバナナは開催期間中に10本食べた。(4年♀)
- 高校の時とは違った雰囲気でも盛り上がり、大学生になったという実感が湧いた。(2年♀)
- 一年間でとても楽しい時間だった。今年もまた友達とみんなで行きたい。(2年♂)
- たこ焼きと焼きそばも焼いた。一番綺麗だったのは雨の中の花火。(2年♂)



工学部



- 準備から打ち上げまで、始終楽しめた。(4年♂)
- サークルの出し物であるづらネタリウムをわいわいしながらみんなで作ったことや、一生懸命星の名前を覚えたこと。(3年♀)
- 地域の方がたくさん来ていて、活気があった。(2年♂)
- 学祭ライブに行ったこと。あこく近くで演奏を見ることが出来た。(3年♀)
- 模擬店のクオリティが高く、驚いた。(3年♂)
- 今年のイベントにも期待!!(院1年♂)
- 普段とは違う感じで、みんな頑張れたのがいい思い出。(4年♂)
- お客さんが来るか不安だったが、始まったら大興奮だった。(3年♂)
- 今年度の入学なので、今年はどんなイベントがあるか楽しみ。(1年♂)
- 自分たちで出し物を準備して、その売上で打ち上げをしたこと。(3年♀)

農学部

- 有名なお笑い芸人が来ていてあこく楽しかった。(2年♂)
- サークルのみんなで、企画を立てて、実行に移したこと。(4年♂)
- あまり話したことがない人とも話せて良かった。(4年♀)
- いろんなことがたくさん経験できた。(4年♀)
- 出し物のために、みんなで調査に行ったこと。(4年♂)
- 行ったことがないけど、色々な企画があるそうなので楽しみ。(4年♀)
- 普段会う機会の少ない友達と話ができたこと。(4年♂)
- 1~3年次まで、所属するサークルでの一年間の成果を展示発表してきた、たくさんの外部の方々に見ていただいたのが一番の思い出。(4年♀)
- 峰ヶ丘祭での活動も含めて、サークルに学生生活の全てを注いだ。(3年♀)
- 峰ヶ丘祭当日になってやっと完成させることができた展示品。(3年♀)



Circle pin-up

私たち宇都宮大学男子バレーボール部は、教育学部の黒後洋先生のご指導のもと、日々練習を重ねています。本年は「関東大学バレーボール連盟」部リーグのチームに勝つことを目標に練習の意識を高く持ち、学年に関係なく選手同士でプレーや考え方、気持ちなどについて良いところや悪いところを



指摘し合いながら個人の技術向上、チームとしての結束力を強化してきました。

今年6月に行われた東日本インカレでは、関東大学バレーボール連盟「部リーグ」のチームである筑波大学を破り、部の目標を達成するとともに、ベスト8という好成績を

サークル紹介 男子バレーボール部



残すことができました。また、8月に行われた関東甲信越大学体育大会では、決勝戦で再び筑波大学を破り、優勝を成し遂げることができました。本年は12月に、全日本インカレという大きな大会が控えています。これまでの成績に満足することなくこの大会もさらなる高みを目指していきます。また、4年生にとっては

はこの大会は「大学生活最後の大会」です。悔いを残さず、後輩達に思いを繋げられるように精一杯のプレーをしたいと考えています。

驕ることなく、これからも常に挑戦者としてチーム一丸となって戦い抜いていく覚悟です。ご声援宜しくお願いいたします。

宇都宮大学男子バレーボール部

INFORMATION

第61回峰ヶ丘祭「浮遊宇」11月21日(土) 22日(日) 23日(月・祝)

*写真は昨年のものです



いよいよ大学祭の季節になりました。今年で第61回を数える峰ヶ丘祭を開催できますことを実行委員一同うれしく思っております。

学生の皆さんから寄せられた案をもとに実行委員会で話し合った結果、今年のテーマは「浮遊宇(ふゆうう)」に決定しました。このテーマには、ここ「宇都宮」で大学祭を思いっきり「楽しむ」という想いと、昨年「60回」という節目を迎えた峰ヶ丘祭について、これからの70回、80回、そして100回に向けて「さらなる高みに浮上しよう」という私たちの覚悟が込められています。

実行委員会によるステージ企画や芸能人の方による講演会、今が旬の芸人さんによるお笑いLIVEなど注目の企画が多数ありますし、毎年恒例のピンゴ大会も3日間開催いたします。また、MELODY STAFF主催のLIVEでは「藍坊主」の皆さんが22日の第一体育館を盛り上げてくださいます。もちろん、最終日のフィナーレでは美しい花火が夜空を彩りますので、こちらも楽しみにしてください。間近に迫った峰ヶ丘祭に向けて、実行委員は連日準備に奮闘しています。有意義な時間を過ごせることと思いますので11月21～23日は是非宇都宮大学にお越しください。 峰ヶ丘祭実行委員会



詳しくは峰ヶ丘祭実行委員会ホームページ URL <http://minegakasai.web.fc2.com/gakusai/index.html>

宇都宮大学管弦楽団第68回定期演奏会

指揮：海老原 光

日時：12月6日(日) 開場13:30 開演14:00

会場：宇都宮市文化会館大ホール

曲目：ベルリオーズ/劇的物語「ファウストの却罰」よりハンガリー行進曲

ドビュッシー/小組曲、ブラームス/交響曲第1番ハ短調Op. 68

入場：全席自由 一般 800円、学生(小中高生) 500円

チケット取り扱い：宇都宮市文化会館、栃木県総合文化センター、上野楽器(オリオン通り店)、宇都宮大学生協(峰)、下野新聞プレイガイド(東武宇都宮百貨店2F、宇都宮パレコ1F)

●お問い合わせはこちらまで●
演奏会実行委員会事務局(関) TEL090-2249-2297

公開研究発表会

宇都宮大学教育学部附属幼稚園公開研究発表会
研究主題「気になる子と保育」

～多様性に応じる教育のあり方～

日時：11月24日(火) 9:00～

場所：附属幼稚園

内容：公開保育及び保育研究

分科会

○気になる子と保育～理解と援助～

○小学校への接続～指導要録の引き継ぎ～

○協同する経験～教育要領の改訂を受けて～

●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学教育学部附属幼稚園 TEL028-622-9051

大学等研究者対象セミナー

受講無料

日時：11月11日(水)、11月25日(水) 16:30～18:30(受付16:00～)

場所：宇都宮大学工学部アカデミアホール

内容：11月11日(水) 知的財産基礎セミナー 弁理士 長谷川芳樹氏
「研究者のための出願から権利取得までの準備と必要な知識」

11月25日(水) 知的財産活用セミナー 弁護士 穴戸充氏
「権利化と権利行使に耐えうる明細書のあり方」

定員：200名 (1日のみの参加も可能です)

対象：大学等教職員、学生、企業関係者、一般等 *参加申込書にご記入の上、FAXにてお申し込みください。

*参加申込書URL：http://www.utsunomiya-u.ac.jp/event/2009/11/pdf/e_091111_2.pdf

●お問い合わせはこちらまで●
財団法人経済産業調査会 事業部 TEL03-3535-4881 FAX03-3535-4887

学内合同企業・公務員等説明会

日時：12月14日(月) 14:30～18:00 公務員

12月15日(火)～18日(金) 13:00～17:00 企業

場所：宇都宮大学学生会館多目的ホール他

対象：学部3年生及び大学院1年生(他の学年でも参加可)

内容：ブース形式による個別説明会

詳細は、参加企業ガイドで確認してください。

●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学キャリア教育・就職支援センター
TEL028-649-5104

第24回24時間耐久リレーボウリング大会

9月15日～16日にかけて、今年も宇都宮トヨーボウルにて、私たち宇都宮大学生協学生委員会(C.C.S.)が主催する「24時間耐久リレーボウリング大会」が開催されました!

毎年恒例となった本大会は「24耐」と呼ばれ親しまれており、その名の通り朝10時から翌朝10時までの24時間、ボウリングを続けるという企画です。ミニゲームやクイズなどの小企画もあり、1チーム10人の計34チームで競い合い、合計スコア+小企画での得点が高いチームが優勝となります。

さらに今回は「第24回」24時間耐久リレーボウリング大会ということで記念大会とし、学生からイメージキャラクターを募集したり、それをデザインに使用したうちわを参加者に配付したりと、初企画をたくさん実施!

さらにさらに!今年も宇都宮市内の企業様

から提供していただいた豪華協賛品を賞品として参加者に贈呈!また、テレビ放映をはじめとして、新聞・情報誌へも掲載され、「24耐」の名が県内に留まらず県外へも轟くこととなりました。

参加者からは、「この大会を通してこの夏一番の思い出を作ることができた」との声が寄せられ、第24回を記念する大会にふさわしい盛大なものとなりました!

宇都宮大学生協学生委員会



第58回関東甲信越大学体育大会結果



【団体戦】

優勝 バレーボール(男子)

優勝 剣道(男子)

準優勝 バレーボール(女子)

第3位 卓球(男子、女子)

【個人戦】

◇陸上競技

100m 第2位 橋本奈央子(教育学部2年)

第3位 森井翠(教育学部4年)

200m 第1位 森井翠(教育学部4年)

第1位 橋本奈央子(教育学部2年)

第3位 白石竜一朗(教育学部2年)

400m 第2位 三村達也(教育学部4年)

1500m 第2位 下野誠仁(教育学部3年)

走高跳 第2位 山田直人(教育学部3年)

三段跳 第1位 田口典裕(農学部3年)

4×100mR 第3位 関口慧(教育学部2年)

森井翠(教育学部4年)

川本睦(教育学部3年)

橋本奈央子(教育学部2年)

◇水泳

200m自由形 第2位 石田潤(工学部1年)

◇柔道

81kg級 第3位 佐藤秀俊(農学部3年)

◇剣道

準優勝 猿山孝英(教育学部3年)

第3位 長巧人(教育学部1年)

研究 Keyword



学生とのスタディツアーでカンボジアのアンコールワット訪問



重田ゼミ4年の学生と栃木県那須塩原市にあるアジア学院で合宿研修



PROFILE

ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(SOAS)開発学修士課程修了。国際協力推進協会(APIC)主任研究員、イギリスのクリスチャン・エイド客員研究員、国際協力NGOセンター(JANC)調査研究担当主幹として勤務。国際学部多文化公共圏センター副センター長。

国際学部国際社会学科教授 重田 康博

ここで、私の過去の活動を紹介します。私は、大学の教員になるまで国際協力団体や国際協力NGOで働いていました。1986年に「財団法人国際協力推進協会(APIIC)」の研究員後から主任研究員として就職し、NGO・開発教育の研究として途上国(以下南)のNGO、先進国

のNGOである「日本国際ボランティアセンター(JVC)」の活動を通して、「JVCカンボジア」の農村開発プロジェクトの支援に係るようになり、毎年のようにカンボジアを訪れ、途上国としてカンボジアが私の専門のフィールドとなっていました。

「多文化公共圏センター」の副センター長もしています。教員以外の社会貢献活動として、現在国際NGOである「オックスファム・ジャパン」の理事(前代表、「開発教育協会」の監事(前理事)などを行い、地元栃木でも「JVCとちぎネットワーク」を立ち上げ、共同代表となりました。また、日本の

「多文化公共圏センター」の副センター長もしています。教員以外の社会貢献活動として、現在国際NGOである「オックスファム・ジャパン」の理事(前代表、「開発教育協会」の監事(前理事)などを行い、地元栃木でも「JVCとちぎネットワーク」を立ち上げ、共同代表となりました。また、日本の



国際NGOオックスファム代表理事ジェレミー・ホプス氏と重田教授(イギリスのオックスフォードにて)

のNGOや政府によるNGO支援の調査を行いました。このNGO研究において南のNGOとして最大規模のスリランカの「サルボダヤ・シユラマダーナ運動」、タイ、フィリピン、インドネシア、ラオス、アフリカの多くのNGO、大量虐殺が行われたボルボト政権後のカンボジアで活動するJVCの活動に出会い、南の現場で活動するNGOの姿に圧倒され、彼らの活動に共感を覚えるようになり、また、NGO先進国といわれるイギリスの「オックスファム」、オランダの「フビエ」、カナダのNGOとの出会いは、当時の私としては衝撃でした。これらのNGOは、数十億単位の予算を持ち、世界の国々で開発協力を行い、国内の学校教育関係者を対象に開発教育を実施し、自国や他国の政府を公然と批判する政策提言やキャンペーンを展開しています。欧米のNGOは、国際協力のパートナーのような大規模NGOもあれば、単独の専門分野でのみ活動する小規模NGO

のNGOや政府によるNGO支援の調査を行いました。このNGO研究において南のNGOとして最大規模のスリランカの「サルボダヤ・シユラマダーナ運動」、タイ、フィリピン、インドネシア、ラオス、アフリカの多くのNGO、大量虐殺が行われたボルボト政権後のカンボジアで活動するJVCの活動に出会い、南の現場で活動するNGOの姿に圧倒され、彼らの活動に共感を覚えるようになり、また、NGO先進国といわれるイギリスの「オックスファム」、オランダの「フビエ」、カナダのNGOとの出会いは、当時の私としては衝撃でした。これらのNGOは、数十億単位の予算を持ち、世界の国々で開発協力を行い、国内の学校教育関係者を対象に開発教育を実施し、自国や他国の政府を公然と批判する政策提言やキャンペーンを展開しています。欧米のNGOは、国際協力のパートナーのような大規模NGOもあれば、単独の専門分野でのみ活動する小規模NGO

のNGOや政府によるNGO支援の調査を行いました。このNGO研究において南のNGOとして最大規模のスリランカの「サルボダヤ・シユラマダーナ運動」、タイ、フィリピン、インドネシア、ラオス、アフリカの多くのNGO、大量虐殺が行われたボルボト政権後のカンボジアで活動するJVCの活動に出会い、南の現場で活動するNGOの姿に圧倒され、彼らの活動に共感を覚えるようになり、また、NGO先進国といわれるイギリスの「オックスファム」、オランダの「フビエ」、カナダのNGOとの出会いは、当時の私としては衝撃でした。これらのNGOは、数十億単位の予算を持ち、世界の国々で開発協力を行い、国内の学校教育関係者を対象に開発教育を実施し、自国や他国の政府を公然と批判する政策提言やキャンペーンを展開しています。欧米のNGOは、国際協力のパートナーのような大規模NGOもあれば、単独の専門分野でのみ活動する小規模NGO

2000年には関東から遠い北九州にある九州国際大学の「NGO論」の大学教員となり、地元で「JVC九州ネットワーク」の代表を任じていました。2005年には、これまでのN

「NGO論」の大学教員となり、地元で「JVC九州ネットワーク」の代表を任じていました。2005年には、これまでのN

「NGO論」の大学教員となり、地元で「JVC九州ネットワーク」の代表を任じていました。2005年には、これまでのN

「NGO論」の大学教員となり、地元で「JVC九州ネットワーク」の代表を任じていました。2005年には、これまでのN



重田ゼミ3年の学生と東京・日比谷公園「グローバルフェスタJAPAN2009」を訪問

「NGO論」の大学教員となり、地元で「JVC九州ネットワーク」の代表を任じていました。2005年には、これまでのN

「NGO論」の大学教員となり、地元で「JVC九州ネットワーク」の代表を任じていました。2005年には、これまでのN

「NGO論」の大学教員となり、地元で「JVC九州ネットワーク」の代表を任じていました。2005年には、これまでのN

「NGO論」の大学教員となり、地元で「JVC九州ネットワーク」の代表を任じていました。2005年には、これまでのN

「NGO論」の大学教員となり、地元で「JVC九州ネットワーク」の代表を任じていました。2005年には、これまでのN

「NGO論」の大学教員となり、地元で「JVC九州ネットワーク」の代表を任じていました。2005年には、これまでのN

「NGO論」の大学教員となり、地元で「JVC九州ネットワーク」の代表を任じていました。2005年には、これまでのN

「NGO論」の大学教員となり、地元で「JVC九州ネットワーク」の代表を任じていました。2005年には、これまでのN

「NGO論」の大学教員となり、地元で「JVC九州ネットワーク」の代表を任じていました。2005年には、これまでのN

「NGO論」の大学教員となり、地元で「JVC九州ネットワーク」の代表を任じていました。2005年には、これまでのN

■ 広報室では、皆様のお声をお待ちしております。
ご意見・ご要望などをお寄せください。

【宛先】
宇都宮大学 企画広報室
〒321-8505 宇都宮市峰町350
TEL 028-649-8649 FAX 028-649-5026
E-mail plan@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

宇都宮大学 携帯サイトへGO!

■ 編集協力

菊池 浩行 学生支援課職員
矢口 季之 企画広報室職員
高橋 和廣 企画広報室職員
本橋 宜久 企画広報室職員
辰巳 太郎 企画広報室職員
ピオス 編集室

■ 編集後記

宇都宮大学広報室
UU now 第19号 編集委員

編集長 渡邊 直樹 理事 企画・広報担当
編集委員
小泉 静香 国際学部4年
鹿子 澤志保 教育学部3年
真弓 泰葉 教育学部3年
大平 准之 大学院教育学研究科1年
山口 佐知子 大学院教育学研究科1年
増山 明恵 大学院教育学研究科1年
村田 大誠 大学院工学研究科1年
渡邊 泰之 大学院工学研究科1年
包 海山 大学院農学研究科1年
松尾 昌樹 国際学部教員
川原 誠司 教育学部教員
長澤 武 大学院工学研究科教員
山本 善徳 農学部教員
佐々木 英和 生涯学習教育研究センター教員

■ 企画・編集

宇都宮大学広報室
UU now 第19号 編集委員

編集長 渡邊 直樹 理事 企画・広報担当
編集委員
小泉 静香 国際学部4年
鹿子 澤志保 教育学部3年
真弓 泰葉 教育学部3年
大平 准之 大学院教育学研究科1年
山口 佐知子 大学院教育学研究科1年
増山 明恵 大学院教育学研究科1年
村田 大誠 大学院工学研究科1年
渡邊 泰之 大学院工学研究科1年
包 海山 大学院農学研究科1年
松尾 昌樹 国際学部教員
川原 誠司 教育学部教員
長澤 武 大学院工学研究科教員
山本 善徳 農学部教員
佐々木 英和 生涯学習教育研究センター教員

秋季オープンキャンパス

教育学部(峰キャンパス) 10月29日(木) 8:30 OPEN 8:50 START
国際学部(峰キャンパス) 11月8日(日) 9:00 START
農学部(峰キャンパス)
工学部(鶴巻キャンパス)

各学部の当日プログラムは
本学ホームページに掲載します

宇都宮大学
UTSUNOMIYA UNIVERSITY

laboratory

NGO活動は私のライフワーク
—世界を知り地域で活動する—

宇都宮大学国際学部教授 重田 康博